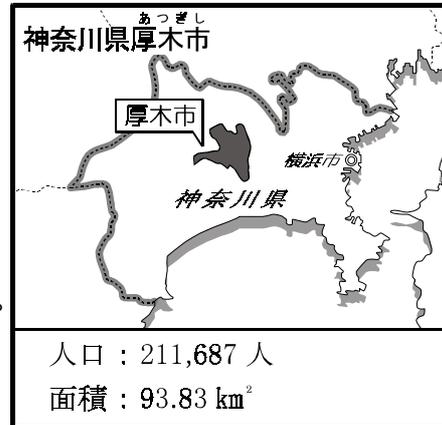


サイクルアンドバスライド事業
- 身近な交通需要マネジメントの取り組み -

1. 背景と経緯

厚木市は神奈川県あつぎしの中央部、相模川の右岸に位置し、古く江戸時代には「小江戸」と呼ばれる交通の要衝であった。

現在でも東名高速道路や国道 246 号、412 号をはじめ、主要な広域道路が市の中心部を通過して各所に向かっており、広域幹線道路の主要な結節点となっている。



しかし、そのため通過交通が多いこと、加えて、市の東境となる相模川の橋がボトルネックになることから、慢性的な交通渋滞にも悩まされており、その解消に向けて、厚木市では高規格幹線道路や環状方向の都市計画道路の整備、交差点の改良などを行なっているが、用地の確保や財源の不足などから、なかなか整備が進まないのが現状である。

そこで、道路整備などハード面の対策と並行して、平成 10（1998）年度から交通需要マネジメントなどソフトな施策にも取り組んでいくことにした。その一つとして具体化されたのが、サイクルアンドバスライド事業である。

バス交通に着目したのは、まず、厚木市の公共交通は南部を通る鉄道に比べ、幹線道路を運行するバス交通が充実しており、その利便性向上は市民意識調査などでも上位に挙げられる課題であったこと、また、交通需要マネジメント（TDM）は行政のみならず事業所や市民との協働が重要であり、市民にも身近なバス関連の事業を通じて、民間事業所の協力や市民の意識啓発効果を得ることができると考えられたためである。

2. 具体的内容と特色

サイクルアンドバスライド事業は、郊外のバス停のごく近くに駐輪場を設け、自宅からバス停までを自転車で、そこからバスに乗り換えて目的地に向かってもらおうとするものである。バス利用者の利便性の向上、バス利用の促進、自家用車からバス利用への転換による交通混雑の緩和やそれに伴うバスの定時性の向上などをねらいとしている。

平成 10（1998）年から基礎調査を実施し、平成 13（2001）年 3 月に、最初のサイクルアンドバスライド駐輪場である妻田薬師駐輪場が完成した。

妻田薬師駐輪場は、鉄道駅に向かう国道 412 号沿いに設置されており、用地は、国が所有、市が管理している公共下水道の水路上面を占有許可により確保し、67mの延長に 154 台分の駐輪用ラック、照明、フェンス、外溝などが整備されている。

サイクルアンドバスライド駐輪場は市の駅前駐輪場などとは異なり、契約や登録の必要はなく、バスに乗る人は誰でも無料で利用できる。管理員はおらず、市の交通安全課が巡回するなどして管理している。

妻田薬師駐輪場が最初の事業箇所を選定されたのは、その水路上面がすでに整備前から、バス利用者の自転車が止められた自然発生的な駐輪場所となっていたからである。そのため、道路に自転車が溢れたり、歩行の障害となったりという問題点も生じていた。そこで、利用者の見込みがあり、かつ、問題の解消が急がれる場所として、妻田薬師駐輪場が整備されたのである。

3．成果と効果

妻田薬師駐輪場は整備されてちょうど 1 年が経過した。利用者は妻田薬師駐輪場からバスに乗り換えて駅に向かう人々が大半であるが、反対に、ここでバスから自転車に乗り換えて近隣の高校に通学する利用者もあり、これらを合わせて、収容能力 154 台に対して 130 台程度の利用がある。ほぼ満杯の状態に近く、バス利用者に活用されている様子が見える。

整備直後は駐輪場に放置される自転車が見られたりしたが、利用者に浸透してきたためか現在はそのような問題も見られない。

一方、事業の大きな目標はバス利用促進による交通渋滞緩和であるが、整備箇所が限られており、また、交通混雑にはさまざまな要因が働いているので、この事業だけで混雑緩和の効果を計測することは難しい。しかし、利用状況が安定していることから、バスの利用者離れを食い止める一定の効果を挙げているものと考えられる。

4．問題点と対応策

整備にあたって、近隣住民の一部から「うるさくなる、ごみが散らかる」などの懸念が示されたが、整備の規模を縮小することで理解を得た。また、国有地である水路上面を活用したことから、こうした整備事業では必ずといっていいほど持ち上がる用地買収の問題は生じなかった。全体としては大きな問題がなく実施できたといえる。

5．今後の展望

妻田薬師駐輪場が、整備以前から自然発生的な駐輪場所となっていたことを前述したが、このような地点はほかにもいくつかあることがわかっている。

市では、TDMに対する市民の理解浸透とバス利用の向上による交通渋滞の緩和をめざし、こうした自然発生的な駐輪場所をサイクルアンドバスライド駐輪場として順次、整備していくことを計画しており、平成14(2002)年4月に都市整備公団が整備した鳶尾団地内に1箇所、平成14(2002)年度中に国道129号沿いに1箇所を整備することがすでに決定している。

鳶尾団地については用地を都市公団から無償で貸与を受け、国道129号沿いの予定地は道路の一部を活用することになっており、いずれも妻田薬師駐輪場と同様、用地費がかからないよう工夫している。

市では、サイクルアンドバスライド事業のほか、県警との連携による駐車場案内システムを活用した混雑情報の提供や、朝の通勤時間帯の混雑が著しい市役所前交差点周辺におけるバスレーンの導入などを進めており、今後はこれら複数の取り組みをさらに推進しながら、市民や事業者の意識を高めていきたいとしている。